

- 問1 7世紀後半、皇位継承をめぐる起きた「壬申の乱」という大規模な内乱に勝利し、都を再び飛鳥地方に戻して、天皇を中心とした強力な中央集権国家の土台を築いた人物は誰か。(2022年 大分県公立入試 類似)
1. 天武天皇 2. 天智天皇 3. 聖徳太子 4. 桓武天皇
- 問2 飛鳥文化が栄えた時代の歴史的な出来事について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2019年 滋賀公立入試 類似)
1. 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。 2. 鑑真が来日して唐招提寺を建立し、仏教の正しい戒律が日本に伝えられた。 3. 聖武天皇が国ごとに国分寺を建て、奈良に東大寺の大仏を造立させた。 4. 空海や最澄が唐から新しい仏教を伝え、比叡山や高野山に寺院が開かれた。
- 問3 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋(ずい)へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。(2015年 大分県公立入試 類似)
1. 遣隋使 2. 遣唐使 3. 遣明使 4. 朝鮮通信使
- 問4 古代の権力争いに関する記録において、蘇我氏が渡来人の持つ高度な技術や知識を背景に勢力を伸ばし、対立する物部氏を退けて政治の実権を握った背景について、正しい説明はどれか。(2025年 岡山公立入試 類似)
1. 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた 2. 蘇我氏は武家社会の到来を予見し、幕府を開くために伝統的な公家勢力であった物部氏を制圧した 3. 蘇我氏は守護大名としての地位を確立するため、山名氏と結んで応仁の乱を引き起こした 4. 蘇我氏は独自の神事による統治を目指し、仏教を広めようとした渡来人の一族を追放した
- 問5 天武天皇の時期に作成が開始された「庚午年籍」などの戸籍は、中央集権体制を築く上でどのような目的で作成されましたか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。(2022年 香川公立入試 類似)
1. 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため 2. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院と僧侶の数を管理するため 3. 地方の豪族に対して土地の私有権を認め、その忠誠を確保するため 4. 諸外国との交易を円滑にするため、都市部の商人層の構成を調査するため
- 問6 法隆寺の建築に見られる特徴や背景について説明したものと、歴史的事実に基づき最も適切な記述を選んでください。(2024年 愛媛公立入試 類似)
1. 中国や朝鮮半島など大陸からの影響を強く受けた、日本で最初の本格的な仏教文化の特色を色濃く残している。 2. 平安時代の貴族たちが好んだ日本独自の様式である「寝殿造」を取り入れ、庭園との調和を重視している。 3. 鎌倉時代に武士の間で流行した禅宗の影響を受け、装飾を排した質実剛健な造りとなっている。 4. 室町時代の文化背景をもとに、現代の和風建築の原型となった「書院造」の様式で建てられている。
- 問7 聖徳太子が建立した法隆寺に代表される、日本で最初の本格的な仏教文化について、その名称として正しいものを選びなさい。(2024年 三重公立入試 類似)
1. 飛鳥文化 2. 天平文化 3. 国風文化 4. 東山文化
- 問8 律令に基づく統治体制では、全国を「国・郡・里」の単位に分け、中央政府が地方を直接支配する仕組みが整えられました。この時、都から各地方へ派遣され、法や規定に基づいて徴税や裁判などの行政を担った役職の名称として正しいものはどれか。(2023年 京都公立入試 類似)
1. 地頭 2. 国司 3. 守護 4. 検非違使
- 問9 645年に始まった政治改革において、中大兄皇子らが進めた「天皇を中心とした国づくり」の具体的な内容として、最も適切な説明はどれですか。(2026年 愛媛公立入試 類似)
1. 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した 2. 地方の豪族に土地の支配権を完全に委ねることで、各地域の農業生産力を向上させた 3. 武士の力を結集して幕府を開き、貴族に代わって武家が政治の主導権を握る仕組みを作った 4. 実力のある人物を役人に登用するため、冠位十二階の制度をより強化して豪族の特権を認めた
- 問10 日本の歴史において、古代の律令国家の形成期と、近代の明治維新期の両方で共通して見られた「中央集権体制」の構築に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。(2024年 福井公立入試 類似)
1. 地方の有力者が所有する私有地を認め、その土地の管理を各地域に任せることで国家の安定を図った。 2. それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。 3. 権限を地方の役所に分散させることで、地域の事情に合わせた柔軟な政治運営を行おうとした。 4. 武士や貴族が土地を世襲的に支配する権利を強化し、身分制度に基づく統治を徹底した。
- 問11 6世紀後半の飛鳥時代において、大陸から伝わった仏教の受容を積極的に進めた蘇我氏と、日本の伝統的な神を重んじてこれに反対し、最終的に軍事衝突の末に滅ぼされた有力な豪族はどこか。(2025年 岡山公立入試 類似)
1. 物部氏 2. 山名氏 3. 中臣氏 4. 大伴氏
- 問12 飛鳥時代の略年表において、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた直後の時期に行われた国防政策として、最も適切なものはどれですか。(2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 大宰府周辺に水城を築き、各地に山城を建設して防人を配置した。 2. 全国に国分寺・国分尼寺を建立し、仏教の力で国家の安定を図った。 3. 元寇の襲来に備えて、博多湾の沿岸に石築地(元寇防壁)を築いた。 4. 院政を開始し、北面の武士を設置して上皇の警護を強化した。
- 問13 飛鳥時代、聖徳太子(厩戸王)は天皇中心の国づくりを進めるため、当時中国を統一していた隋に使節を派遣しました。この使節の代表として大陸へ渡り、進んだ制度や文化を日本に持ち帰る役割を担った人物は誰ですか。(2024年 奈良公立入試 類似)
1. 小野妹子 2. 鑑真 3. 空海 4. 中大兄皇子
- 問14 天武天皇が進めた政策のうち、国家の正当性を示し、天皇の権威を強化する目的で行われた事業として最も適切な説明を選びなさい。(2024年 大阪公立入試 類似)
1. 国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。 2. 仏教の力で国家の混乱を鎮めるため、東大寺の大仏造立や全国への国分寺建立を命じた。 3. 律令制度を完成させるため、日本で最初の本格的な法律である大宝律令を制定した。 4. 新しい政治の形を整えるため、唐の長安をモデルとした平城京への遷都を断行した。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 天武天皇	中大兄皇子（天智天皇）の死後、その息子である大友皇子と、天智天皇の弟である大海人皇子が皇位をめくって争ったのが壬申の乱です。これに勝利して即位した大海人皇子が天武天皇です。天武天皇は、豪族の影響を抑えて天皇に権力を集中させる政治を推し進めました。
問2	答え 1 西暦607年に小野妹子が遣隋使として派遣され、大陸の優れた制度や文化が持ち込まれた。	飛鳥文化の背景には、遣隋使の派遣によって中国（隋）の進んだ文化や仏教が直接導入されたことがあります。鑑真や聖武天皇の事績は8世紀の奈良時代（天平文化）、空海や最澄の活動は9世紀初めの平安時代（弘仁・貞観文化）の出来事であり、飛鳥文化とは時期が異なります。
問3	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとしていました。
問4	答え 1 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた	当時の蘇我氏は、渡来人と深く結びつくことで先進的な技術や仏教という新しい思想を政治に取り入れ、それまでの氏族制度に基づいた政治を打破しようと試みました。これに対し、伝統的な儀式を司ることで地位を維持してきた物部氏は、自身の権益を守るために仏教受容に反対しました。蘇我氏の勝利は、後の聖徳太子による改革や、仏教を中心とした国家体制の整備に大きく影響を与えました。
問5	答え 1 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため	中央集権国家の確立には、国家が直接人民を支配し、労働力や税を徴収する仕組みが不可欠でした。戸籍（庚午年籍）を作成して全国規模で人民を登録することで、公平かつ確実な徴税や徴兵を可能にし、天皇による統治基盤を強化する狙いがありました。
問6	答え 1 中国や朝鮮半島など大陸からの影響を強く受けた、日本で最初の本格的な仏教文化の特色を色濃く残している。	法隆寺が建立された飛鳥時代は、仏教の伝来とともに、中国（南北朝時代や隋）や朝鮮半島の百濟などの技術が積極的に導入された時期です。法隆寺の柱に見られる「エンタシス（中央のふくらみ）」などの特徴は、遠くギリシャの神殿建築の影響がシルクロードを経て伝わったものと言われており、当時の国際色豊かな文化背景を示しています。寝殿造や書院造は、より後世の時代に成立した建築様式です。
問7	答え 1 飛鳥文化	7世紀前半、聖徳太子が政治を執り行った時代を中心に栄えた文化を飛鳥文化と呼びます。法隆寺の建築や仏像などには、中国の南北朝時代の文化や、さらに西方のインドやギリシャの影響も見て取ることができます。
問8	答え 2 国司	律令体制のもとでは、中央から派遣された「国司」が、各地方の政治を担当しました。現在の地名に残る「国領」などの言葉は、国司が管理した土地に由来することが多く、地方豪族が私有地を支配する形態から、国家が土地と人民を直接支配する「公地公民」の原則に基づく体制へと移行したことを示しています。
問9	答え 1 土地や人民は豪族が私有するのではなく、すべて国家のものとする公地公民の原則を打ち出した	大化の改新では、当時の中国（唐）の制度を参考に、それまで豪族が個別に支配していた土地や人民を国家が直接管理する「公地公民」の制度を目指しました。これにより、全国的な徴税や戸籍の作成が可能になり、天皇による中央集権体制の基礎が築かれました。
問10	答え 2 それまで地方の有力者が個別に支配していた土地や人民を、国家や天皇が直接支配することを目指した。	律令国家における「公地公民」の原則と、明治新政府による「版籍奉還」や「廃藩置県」は、どちらも土地と人民の支配権を中央へ集中させることを目的とした政策です。古代では豪族、近代では大名という、それまでの地方支配者の権利を否定し、中央政府が直接的に国民を統治し、税を徴収する仕組み（中央集権体制）を整えようとした点が共通しています。
問11	答え 1 物部氏	古墳時代から飛鳥時代にかけて、政治の実権をめぐる有力な豪族の間で激しい争いが起こりました。仏教を新しい統治の道具として取り入れようとした蘇我氏に対し、軍事や刑罰を司り伝統を重んじた物部氏は強く反対しました。この対立は「崇仏論争」と呼ばれ、最終的に蘇我馬子が物部守屋を滅ぼしたことで、日本における仏教受容の流れが決定的となりました。
問12	答え 1 大宰府周辺に水城を築き、各地に山城を建設して防人を配置した。	白村江の戦いでの敗北後、中大兄皇子（天智天皇）は緊迫した国際情勢に対応するため、急速に防衛体制を整えました。福岡県の大宰府周辺に築かれた水城や、西日本各地の山城は、敵軍の上陸や進撃を阻止するための施設です。また、沿岸部の警備として防人を配置したことも、この時期の重要な特徴です。
問13	答え 1 小野妹子	聖徳太子は、当時の先進国であった隋の優れた政治体制や仏教文化を取り入れることで、日本の国家としての地位を高めようとしていました。小野妹子はその代表的な使節（遣隋使）として抜擢され、対等な外交を目指す国書を携えて海を渡りました。これにより、後の大化の改新などにつながる重要な知識や技術が日本にもたらされました。
問14	答え 1 国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。	天武天皇は、壬申の乱を経て確立した自らの政権の正統性を国内外に示すため、国家の歴史編纂を命じました。これが後に『古事記』や『日本書紀』として完成します。また、この時期に「天皇」という称号や「日本」という国号が本格的に使われ始めたと考えられており、これらは中央集権体制を象徴する重要な動きとなりました。